

にしやま尚利 県議会のご報告



●福祉公安委員会 副委員長
●子育て・健康・医療対策特別委員会 副委員長

福島県の未来像と 教育理念は

東日本大震災、原発事故から、間もなく1年7ヶ月。原発廃炉まで40年。その時には昨年生まれた赤ちゃんが、40歳になります。原発事故は我々大人の責任です。私達はこれから、その責任を具体的な行動を以て果たしていかなければなりません。

その最も重要な柱は、教育・人材育成です。福島県の子供をどのような人間に育て上げ、郷土と日本の未来を担ってもらおうのか。



▲県議会での一般質問 (H24年10月2日)

その実現には、「確かな未来像」が必要です。「教育は福島県100年の大計」です。世代をつないで、しっかり土台を築き、その上に私達が描く未来像を一步一步着実に、実現していかなければなりません。本県の未来像と教育理念を伺います。

答弁 先月、少年の主張・県大会で最優秀となった女子中学生は、自らの避難生活をふり返って、「困っている人、苦しんでいる人を救える人になりたい」と熱く

語っていました。厳しい状況の中で、子供達の中に、人のために役立つとうという、将来への前向きな姿勢が芽生えているのは、心強いことです。若い世代に託す本県の未来像は、「人と地域がより一層の輝きを取り戻し、活力に満ち、安心・安全に支えられ、思いやりにあふれるふくしま」です。

「心豊かなたくましい人づくり」をめざして、郷土の復興に役立ちたいという子供達の思いを実現するため、医学や新たな産業の基盤となる理数教育、再生可能エネルギー教育、国際化の進展に対応できる人づくりなどを進めていきます。

コミュニケーション力を

皮肉にも、原発事故で「ふくしま」は一躍有名になり、これから多くの人々が、研究や研修、視察、ビジネス、ボランティアなどで、国中、世界中からやって来ます。逆に、福島から県外、海外に出て、情報発信する機会も大幅に増えていきます。そこで大切になってくるのは、コミュニケーションの力です。特に「福島県人はアピール力が足りない」といわれますが、自分の意思を堂々と述べ、お互いが徹底的に話し合い、結論を導き出す、といったコミュニケーション力をつけなければなりません。

「世界の有識者の知見を集め

この秋も美味しいくだものが実りました。各地では秋祭りや運動会なども賑やかに行われ、日常を少しずつ取り戻しているようです。しかし、県内外避難者が16万人もあり、不安と不自由の中でくらしおられます。あらためてお見舞い申し上げます。

て、福島の支援に取り組みたい」この8月、知事に対し、天野IAEA事務局長が力を込めて述べたそうです。まさに福島県と世界中との共同作業が始まります。その際、福島県に一番求められるも



▲福祉公安部会 (H24年8月28日)

のは、国際共通語としての「英語」であると私は確信しています。

答弁 実践的な取り組み事例を紹介すると共に、授業改善を促す専門的な研修会を開催していきます。

英語を第二公用語に

英語によるコミュニケーション力の育成は、福島の未来を創る戦略です。これは幾世代にもわたる大作業ですが、まず第一歩を踏み出さなければなりません。「英語を日本語に次ぐ第二公用語にしていくぞ」という福島県の覚悟と気概が必要です。

答弁 高等学校の英語の授業を極力、英語で行うことを推進すると共に、英語教員と外国語指導助手とのチームティーチングを充実させるなど、総合的な英語力の充実を図っていきます。

英語イマージョン教育を

英語イマージョン教育を提言します。イマージョン教育とは、外国にいるのと同じ環境の中で、外国語を身に付ける語学学習法で



▲県民医療対策特別委員会 (H24年9月6日)

す。それを実施するには、まず、全ての授業を、英語で行える教員が必要です。この教育で子供が学ぶのは、言語だけではなく、英語という他の国の言語を通して、日本人と外国人の考え方や文化はどう違うのかを学びながら、日本人としてのアイデンティティを確立していく力も付けていくことになります。

以前の駐日大使で、日本を愛した故エドウィン・ライシャワー氏は30年前に著書「ザ・ジャパニーズ」の中で次のように嘆いています。「沢山の日本の閣僚や西洋史を含む歴史学者と知りあったが、知的で真剣な会話を英語で交わすことができるのはせいぜい3名しか思いつかない。日本のように大きな経済力を持ち、国際関係への依存度が高い国にとって、これは悲しむべき事態で

ればならず、福祉公安委員会で集中審議を行いました。

その結果、事前の意見調整やすり合わせ、口止めなどは確認されませんでした。「進捗表」の配布など、私達に疑念を抱かせかねない行為がありました。従って、県民の健康不安をとり除くた

ある。日本と外部世界とを隔絶する言語的障壁を、日本人が乗り越えるために、もっと努力を払ってこなかったことは驚きに値する」。一この切実な訴えは、まさに今、福島に向けています。



▲福島復興委員会 (H24年8月6日)

福島の将来を見据え、英語イマージョン教育を積極的に展開するべきではありませんか。

答弁 英語イマージョン教育は、英語力の向上という評価がある一方、英語で授業が行われるために、各教科の学習内容が理解しきれないという課題も指摘されています。今後、英語イマージョン教育の先進事例について研究していきます。

英語教員の能力向上を

世界では、人口の4人に1人が英語で対話しており、英語は、21世紀世界語となっています。そのような中、子供達が、将来、社会で英語を使うのは必然のこととなるでしょう。そのためには、第一に、英語教員の更なる能力の

にしやま尚利連絡先

めに情報公開を適正に行い、県民目線に立った迅速な取り組みで、信頼回復に全力を尽くすよう、県に強く求めました。

これからも、皆様のお役に立てるよう、一層の努力を重ねてまいります。変わらぬご支援、ご指導をお願い申し上げます。

向上が必要です。

答弁 今年度から、モデル校で大学教授などを講師に、研究会・研修会を行うなど、指導方法の研究に取り組んでおり、今後、その成果を反映させた公開授業を行い、効果的な指導方法の普及を図るなど、英語教員の指導力の向上に努めていきます。

豊かですやかな未来を

子供達に英語力をつけることは、最終目的ではなく手段です。言葉は、人と人をつなぐ媒体です。その「言葉」を使って、何を伝えるのか。その内容があつてこそ「言葉」です。語学の教育を通して、子供達が、お互いの意見・個性を認めあい、尊重しあう精神を以て論議を尽くし、いい方向を見つけていく力を育てていかなければなりません。

将来、福島の子供がその英語力、コミュニケーション力を持って、世界の人と対等に交流し、豊かですやかな福島の未来を築いていってくれることを願ってやみません。



▲企画環境部会 (H24年9月7日)

〒960-8166 福島市仁井田字中川原59-5
電話 024-529-7836 FAX 024-529-7837